

WANdisco SCM Suite 「いつでも」「どこでも」リアルタイム開発

WANdiscoは、コスト対効果が高く、フォールトトレラントな、マルチサイトのCVS、CVSNT、Subversion用ソフトウェア・コンフィギュレーション・マネジメント(SCM)ソリューションで、国内外に分散した開発拠点をリアルタイムで同期する、Active-Activeレプリケーションソリューションです。これにより、皆様の開発チームは、「いつ」「どこにいても」一つの開発チームです。

分散しているサイトのソースコード・リポジトリも、WANdiscoによってWAN経由で、あたかもひとつのリポジトリのように扱えます。ソースコードツリーが複数に分岐したリポジトリを統合するには、かなりの工数と期間がかかりますが、WANdiscoはそれをなくしてしまいます。プロジェクトのマイルストーンでのビルドでは、複数のサイトの情報を統合するだけで何週間も消費し、更に発見された差分の解消のために更に膨大な工数を消費します。WANdiscoでは問題は早期に発見され、これらの工数を大幅に減らすことができ、開発サイクルを最大50%も短縮します。

また、WANdiscoでは、ディザスタ・リカバリは克服すべき課題となりません。サイトの一つがダウンしても、開発は継続され、回復時には自動で復旧されるのです。

Active-Active リアルタイム・レプリケーションで、「どこでも」開発

WANdiscoのActive-Active リアルタイム・レプリケーションは、キーとなる機能です。WANdiscoは、内蔵するDConeエンジンによって水平分散型のレプリケーションを行っており、各ノードは対等です。DConeはローカルからのアップデート要求を受け付け、それを全ノードで実行することで、リアルタイム・レプリケーションを実現しています。つまり、WANdiscoでは常に全てのノードのリポジトリが同一になります。これにより、間にWAN伝送遅延に悩まされずに、開発者が一つのリポジトリで作業しているのと同じ状態になります。

一般的な他のSCMは、マスター・スレーブ型のアーキテクチャを採用しており、そのため、マスター・サーバーがアキレス腱となる欠点があります。

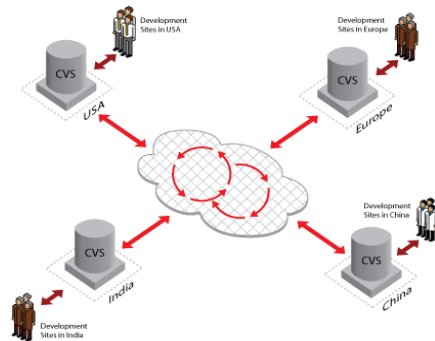
自動修復機能とハイ・アベイラビリティ

WANdiscoのActive-Activeアーキテクチャと自動修復機能は、フェイル・オーバーと自動リカバリを提供します。ネットワークやサーバーがダウンしても、開発者は作業を継続できます。リポジトリへの変更要求は、データベースで言うREDOログのようなトランザクションジャーナルに記録され、接続が回復した際に、自動的にグループのWANdiscoと通信を行ってトランザクションジャーナルを元に自動的に復旧を行います。従って、作業が止まって時間を無駄にすることもなく、また行った変更も保護されるので手戻りもありません。ディザスタ・リカバリとして使う場合も特別なハードウェアも他のソフトウェアも必要ありません。

知的財産権を守り、コンプライアンスを行うセキュリティ機能

オフショアを活用したアウトソーシングでは、ソースコードの喪失や知的財産の保護が大きな課題となっています。またSOX法(Sarbanes-Oxley Act)も、大きな課題です。これらのリスク回避やコンプライアンスを行って行く際、自動的にソースコードのアクセス統制を取り、また、アクセス記録を行うことは重要です。

WANdisco (Enterprise Edition)では、アクセス承認や認証と監査対応機能を提供しています。管理者は最小の努力で最も複雑なレベルのセキュリティ・ポリシーを全ての管理対象開発サイトに適用できます。ユーザー定義はLDAPなどからバルクで読み取ることが可能で、手作業と手作業によるミスが減ります。グループ、ロール、およびユーザー単位、更にIPアドレス・レベルのアクセスコントロールが、ブランチ、モジュール、ファイルの単位まで可能で、職務で分離できます。セキュリティの設定は、全サイトに自動でレプリケーションされます。オンライン・クエリー&レポートは、リポジトリへの全ユーザーアクセス(アクセス違反を含む)をトラッキングし、監査などで要求される手作業でのデータ集計やレポート作業最小化します。LDAP、NIS、アクティブ・ディレクトリおよび、他の認証サーバーがサポートされています。



フォロー・ザ・サン・オプション

本オプションは、特定の時間(通常の就業時間)にある特定のサイトに優先権を与え、レスポンスをよくすることができます。例えば、サーバーが東京とカリフォルニア州サンノゼにあった場合、東京のビジネスアワーには、東京ではWANの伝送遅延なしに書き込みができ、サンノゼには非同期で書き込みに行きます。日本のビジネスアワーが終わって、サンノゼの時間が始まると、WANdiscoは優先権をサンノゼに渡し、今度はサンノゼ側が伝送遅延なしに書き込みができるようになり、日本には非同期で反映します。これにより、WAN伝送遅延によるストレスをなくします。

トランスペアレント(透過的)なゲートウェイとして実装されます

WANdiscoはSCMクライアントの設定を変更する必要がありません。またサーバー側のファイルシステム設定も変える必要がありません。WANdiscoは実質的に、SCMサーバーとクライアント間のトランスペアレント(透過的)なゲートウェイとして実装されます。WANdiscoは、SCMサーバーの筐体にインストールされ、専用のサーバーは不要です。ユーザー側である開発者はWANdiscoを入れた事を知る必要ありません。例えば、CVSの場合、クライアントはそのままpServer ポート2401或いはSSHで接続できますので、CVSサーバーにアクセスできるCVSクライアントは全てサポートされます。WANdiscoは、プロトコルインターフェースだけを提供して、元のSCMは何も変更していないため、このような事が可能です。これは、ユーザーも管理者も既に使用しているCVSやSubversionの知識をそのまま活用でき、すぐそのまま使えることを意味します。(SubversionやCVSNTでも同様です)

WANdiscoは、SCMリポジトリ間のデータをマイグレーションするツールも提供し、データの移行をお手伝いしています。

ネットワーク・パフォーマンスの向上と、ネットワークコストの削減

WANdisco導入以前、多くのお客様は分散サイト間の連携に太い回線を用意して、月数十万円、百数十万円を支払っていました。WANdiscoは回線の帯域を節約すること各リポジトリ・レプリカ間で、ネットワークコストを下げるにも貢献します。

- WANdiscoは、リポジトリ間の変更を転送するため、TCP/IP上に独自のプロトコルを実装。冗長なTCPシーケンスを省略します。
- WANdiscoは、物理的な接続を維持して各リポジトリ・レプリカ間の一貫性を保とうとします。従って、コネクションを張り直すオーバーヘッドがありません。また、多数のSCMクライアントをサポートするため、コネクション・プーリングを行っています。
- WANdiscoは、必要以外のWANTラヒックを発生させません。開発者がローカルのSCMリポジトリからソースをチェックアウトする際には、WANTラヒックは起こりません。開発者がチェックインしようとする時、WANdiscoは全レプリカにリクエストを出す前にローカルでのチェックインが失敗していないかどうか確認します。

ローコスト・ハイリターン

WANdiscoのコストは、他社のSCMソリューションよりもずっと低価格となっています。また、WANdiscoでネットワーク帯域や無駄な作業工数などを削減できるため、フリーのSCMよりも効果が高いです。100人規模の中堅サイズの組織でさえWANdiscoによって年間1億円以上を削減できていると試算されています。他の商用SCMでは削減できないコストを考慮すると、他社商用SCMよりも年間3.6億円も安いという資産もあります。

対応SCM

WANdisco Replicator for CVS

CVS 1.11.x, 1.12.x, 2.0.x.

WANdisco Replicator for Subversion

Subversion Server 1.3 またはそれ以上

WANdisco Replicator for CVSNT

CVSNT 2.0.53 またはそれ以上

詳細は各々のデータシート参照

About WANdisco

本社:
WANdisco, Inc. World Wide Head Quarters

4695 Chabot Drive Suite #115
Pleasanton, CA 94588 USA

URL: <http://www.wandisco.com/>

アジア地区担当

東京オフィス:
WANdisco Tokyo.

143-0023 東京都大田区山王2-1-2
Oomori Station Box 6F

URL: <http://www.wandisco.jp/>